

第26回 山梨大学教育フォーラム

～今、理系離れを考える～

学ぶ意義と有用性を重視するこれからの理数教育

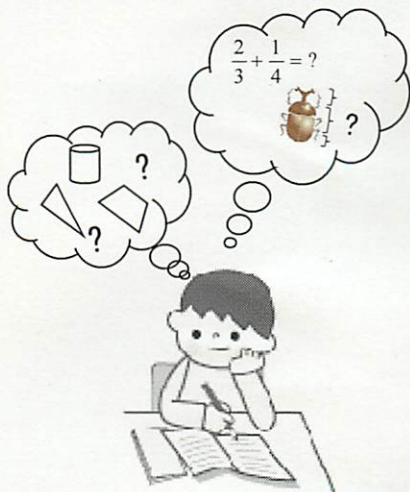
講師 小倉 康 先生

(埼玉大学教育学部 准教授)

最近のOECDのPISA調査（国際学習到達度調査）では、日本人の読解力、理数系の学力の低下には一定の歯止めがかかったように見受けられる一方、数学や理科に対する苦手意識や学習意欲の低下、すなわち「理系離れ」が払拭されたとは言い難い傾向も見られます。

産業立国日本において、理数離れは将来の国の発展に重要な問題を引き起こす可能性があることを鑑みれば、理数教育を如何にしていくかという問題は、教育に携わる側として真剣に向き合わなければならない問題です。

今回のフォーラムでは、実際にPISAの国際専門委員を務められるなど、長年、理科教育の国際比較調査を担当され、現在は大学での理科教員養成とCST(コア・サイエンス・ティーチャー)事業等の現職教員研修に携わっておられる埼玉大学の小倉康先生をお招きし、さまざまな調査データに基づいて、今日、学ぶ意義と有用性の重視が必要となった背景と実態についてお話いただくと共に、これからの指導改善の方向性について、具体的な指導例を提案していただきます。



日時：平成26年3月16日（日） 13時より

場所：山梨大学教育人間科学部J号館5階 A会議室

後援：山梨県教育委員会・甲府市教育委員会

連絡先 山梨大学教育実践センター TEL:055-220-8325

- ・入場料は無料です。お気軽にお越しください。
- ・駐車スペースには限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。